
オオカミさんとホスト？な少年

?紫苑?

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

オオカミさんとホスト?な少年

【Zコード】

Z2835Y

【作者名】

?紫苑?

【あらすじ】

僕が書く、オオカミさんシリーズの一次創作!
まさかの、あの人�태列た!?

プロローグっぽくないプロローグ（前書き）

初めまして?
アンケートに投票してくれたかた
ありがとうございます

プロローグっぽくないプロローグ

彼、森野亮士は通称御伽銀行と呼ばれる
『御伽学園学生相互扶助協会』
に入った。

御伽学園の御伽銀行という名は
御伽花市では絶対の恐怖として
知られている

曰くあれに逆らつたら
この町では無事に暮らせない、
奴らに借りを作つてしまつと
尻の毛まで抜かれてしまつ、
奴らに関わると

チワワが愛おしく見えてくる、
利用が計画的な人間は
間違いなく奴らと関わらない

という感じです

「御伽銀行地下本店へようこそ」
どうしてこうなつたか、かなり気になる人は
買って読んでください・・・

りんごさんが大きな食器棚をずらすと
現れたのは、地下へと続く階段。

りんごさんというのは、

『赤井 林檎』 高校一年生。

小さい背に、かわいらしい容姿、
腹黒いけど、見た目だけは天使の
よつな女のです。

「とー 説明してある間にかなり進みましたね~

「IJIはですの。 学校ができる前に防空壕だった
といひなんですよ。この学校ができるときに手を加えてここがで
きましたの。まあ、それから何度も改築されてかなり過ごしやすくな
っていますのよ。電気に水道はもちろんのこと水洗トイレまで完備
ですの。」

そう言いながら進むりんぐれん。

「IJIの辺りの部屋は、倉庫に水回り関係に
電算室に仮眠室って感じです。

詳しい説明はあとにまわしますけど・・・。
まあ、まずは皆さんに顔見せをしましょうですの」

「わかつたっス

きょろきょろと周囲を見回しながら
亮士くんは言つ。

りんぐれんはそのまま進んでいたが、
右側三番田の扉の前に止まつた

「とー IJIの紹介は後回しにするわけには
いきませんの。 それに
魔女先輩を呼ばないといけませんし
「魔女先輩つスか?」

どう考えてもあだ名だらう
その名前を聞いて
老婆が ヒーッヒッヒッヒー^ト
とか笑いながらヤモリを大釜で
煮て いる姿が亮士くんの脳裏に浮かんだ

プロローグっぽくないプロローグ（後書き）

ほとんじ、書を書いてこますので
今のところは・・・
もつらしじてたり主がでできます

魔女たち登場！（前書き）

^
^

魔女さん登場！

「そう。2年生の先輩です。ここは魔女先輩の工房でいつもここにいるんです。

ここ、通常は立ち入り禁止ですので気を付けてください。というか、危険なので近づかないでください。勝手に入ると罠が発動しますのよ。」

「まあ、ですの 一人だけ普通に入る人がいるんですね。あの時はすぐかつたですの」
どんなことがあったのでしょうか。

「どうわけで気を付けてほしいですの」と
念を押しながら扉をノックするりんごさん
広間のほうに来てほしいですの」

あだ名や武勇伝から
すんごい想像をしてたりする亮士君は
どきどきしながら返事を待つ
そして、扉の中からかわいらしい声が聞こえた

「わかったヨー」

魔女さんは軽かつた。

「「ほん。 それではお待ちかねの仲間たちとのご対面です。」

まあ 基本的には いい人なので

あまり気にしなくてもいいですよ。」

「はっはいっス」

がちがちの亮士君、「基本的には」の部分が微妙に強調されていたことに気付かない。

・・・りんごさんは扉を開いた

トンネルを抜けると・・・そこはメイドの国だった
いや、マジで

魔女たち登場！（後書き）

短いと思こますがきりがよかつたので
じこまでにします

感想、誤字等などがあつましたら
教えてください！

• • • - (前書き)

^
^

・・・！

あまりに予想外の光景に
固まる亮士くん

・・・そうメイドがいた。

そして、りんごさんと大神さんに
メイドはにつこり微笑んでお辞儀を一つ

やつゝと出てきた大神さん

大神涼子。高校1年生

子供も怖がる凜々しい目。

笑うとのぞく魅惑的な犬歯

胸はないけど、とっても美人（？）で
ワイルドな女の子なのです！

「あら、お帰りなさいませ、

りんごさま、涼子さま」

「おつう先輩、こんにちはですの」

「どうも」

「はい」

にこにこにこにこと慈愛あふれる笑顔で
後輩たちを迎えるおつうさん

二人の後に彫像のごとく

固まつたまま突つ立つている亮士くんに気付いた

「あら、そちらがうわさの……」

「そう、期待の新人森野亮士くんですの」

「いつたいどこが期待の新人なんだよ」

「涼子ちゃんのハートをゲットするかもしれない

人なんですから、期待の新人ですの」

「はつありえねーありえねー」

手を振り、呆れたというジェスチャーをする大神さん。が、

「涼子ちゃん顔真っ赤ですよ?」

「なーー!」

大神さんとりんごさんとのじやれあいは
さておき・・・・・

社長がいそうな雰囲気の部屋

でかいテレビにモニター、掛け軸

ふかふかのじゅうたんなどおいてある

地下にこんな部屋があったとは・・・

「頭取、仕切っていただけますの?」

りんごさんは、部屋の一一番奥の木製の立派な
机に目をやって言った。

社長室にでもありそうな机と椅子に

にへら」と締まりのない表情をした少年が座っている

頭取と呼ばれた少年だ。

その頭取さん、マイナスもプラスもない目立たない容姿をしていて、髪の毛は短く切りそろえられている。服装はなぜか燕尾服。

机の上で組んだ手は男と思えないほど白くほつそりとしている

もやしつ子みたいな感じで・・・

「え～ 僕がかい？ じつじつとはアリストくんが適任じゃないかな？」

頭取さんはそういうて自分の隣に立つ大人びた少女に話しかけるが、一言でぱつたり切られた

「頭取、たまには働いてください」

秘書みたいなアリストと呼ばれた女子生徒、その、切れ長の瞳が絶対零度の冷たさで頭取さんを突き刺している

「ん、ん～ そうだね～？」

「じゃあ、執事くんは～？」

「断る しかも今働けって言われたばかりだろ

めんどういし・・・

頭取さんは次にアリスさんの横にいる
一見、さわやかそうな美少年に話しかけるが
断られる

「アリス、そんな怖い顔してるとかわいい顔が
台無しだよ？」

「／＼／＼つ！ 別にいいです！」

執事と呼ばれた少年はアリスさんに話しかける
頭取さんの時と態度が全然違うけどね～

#お問い合わせくださいよ~。(福島モ)

久しぶり?に更新します

お姉さんみたいだよ~。

「…………うつむいて待つし、お姉さんみたいだよ~。」

「おじいちゃんの~？」

「うそ、嘘い

机の上に並んでモニターを回してみんな見てやあへんな顔取れる

やの画面にならぬの前にたつてこな

少女が映っていた

「アリス君確か今日の班組は二年生組だったよね?」

「はー。ううでー」

「一年生組はいい感じ見て覚えてね?
けど、共同作業つけるとやね~。」

「かし」しました」

そういうて一礼したあと部屋をでていく

おつかさん

～すすむ～はなしが～

「やうですの。ここにいるのは女人ばかりですし、
頭取は男性のくせに役に立ちませんの。おかげでし。
執事先輩は何でもできるので完璧ですの。」

「光榮だよ。」

「はははつ赤井くんもなかなか失礼だね?
執事くんもアリストくんもそう思わないかい?」

「妥当な評価だと思いますが」

「うん・・・正解だと思います。」

「ははは？いや、暴力ですべて解決するのはどうかと思つしね？
それに僕はおかまじやないよ。」

「じゃ、女装趣味に訂正しますの」

「まつまつま？」

冷や汗かく頭取さん

実を言つと執事くんも女装が得意なんだよ？

「んーじゃあま、鶴ヶ谷くんが上に上がるまでに簡単に
僕の紹介でもしようかな？
僕の名前は桐木リスト。
これでもたぶん頭取だよ？ね？」

隣のアリスさんに問いかける頭取さん

アリスさんはそのきれいなお顔をゆがめて言つ

「遺憾ながら」

「はははつ相変わらず厳しいね？アリスくん？」

で、

このクールビューティーな彼女は
桐木アリスくん、副頭取だよ？」

「よひしく」

「はははつれないね？将来を誓って合った仲だとこいつのこへ。」

「ふざけるのは趣味だけにしてください
ちなみに名字が同じなのはいとこ同士だからです。」

「そして、その横にいるのは？

同じく副頭取の北風太陽くん。

通称執事くんだよ？名前がぴったりだよね？

女性には優しく（太陽）男性には厳しく（北風）ね？」

「どうも。ちなみに厳しくするのはリストだけだから

やつと出できた主人公の名前！

「こからは執事くん田線で行くよ？」

「アリスはリストのこと好き？」

好きなのかなあ～気になる

「・・・なつなにを言つてるんですかー」コウくん！』

焦つてるつて」とは好き！？

「だつて・・・リストが将来のことを誓い合つた仲つて・・・」

「冗談ですつて！」

ホントに？

「そう？ 本当に？」

「本当にです！ それに私には別に好きな人が

』

？

「どうしたの？ アリス？ 何か言つた？」

何か聞こえたような・・・

「いっ、いえ／＼ なんでもありませんよ？」

お疲れさまだよ〜。(後書き)

ありがとうございました?

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2835y/>

オオカミさんとホスト？な少年

2011年11月27日19時57分発行